

平成 22 年度

# 学校経営計画

(年度末評価)

広島県立庄原特別支援学校

## 目 次

平成 22 年度 学校評価（年度末評価）・・・・・・・・・・ 1

平成 22 年度 自己評価シート（年度末まとめ）・・ 4

平成 22 年度 学校関係者評価シート（年度末）・・ 5

## 平成22年度自己評価シート（年度末評価）

|    |     |     |          |      |       |       |     |
|----|-----|-----|----------|------|-------|-------|-----|
| 校番 | 113 | 学校名 | 庄原特別支援学校 | 校長氏名 | 刺田 信行 | Ⓐ・定・通 | Ⓑ・分 |
|----|-----|-----|----------|------|-------|-------|-----|

### 学校経営目標

| 達成目標   | 評価指標      | 前年度                | 本年度               |              | 評価 | 理由   | 担当部等  |
|--|-----------|--------------------|-------------------|--------------|----|--|-------|
|  |           | 実績値                | 目標値               | 実績値          |    |  |       |
| 1 特別支援教育に関する専門性を確立し、授業の改善・充実により児童生徒の生きる力を育む。 |           |                    |                   |              |    |  |       |
| (1) 教職員の専門性の向上を図る。                           | 研修会の回数    | 39回                | 40回               | 43回          | A  | 目標を達成できた。  | 教育企画部 |
| (2) 専門性に基づく教育課程の編成。                          | 評価の実施     | 実施した               | 評価の実施<br>70%      | 評価の実施<br>70% | A  | 単元計画・指導略案の作成し授業後の振り返りを行うようにしている。それを教育課程の編成に活かすようにした。 | 教務部   |
| (3) 児童生徒の健康の保持に努め、健康教育や食育を充実させる。             | 食育の授業     | 年間<br>6回           | 年間<br>6回以上        | 8回           | A  | 年度中盤には予定の授業数をクリアし、後半予定の授業も含めすべての授業をこなすことができた。        | 保健部   |
| (4) 生徒指導に係る方針を策定し、生徒指導の充実を図る。                | 生徒指導方針の確立 | 方針、マ<br>ニユア<br>の確立 | 生徒指導<br>方針の<br>確立 | 未作成          | C  | この一年をかけて、生徒指導規定作成に向けて検討した。                           | 生徒指導部 |
| (5) 進路指導充実のため、関係機関との連携を強化する。                 | 就業体験先の開拓  | 10件                | 10件               | 15件          | A  | 目標を達成できた。  | 地域支援部 |

#### 【評価結果の分析】

- (1) 計画通りに実施することが出来た。
- (2) 単元計画・指導略案の作成や授業の振り返りが定着しつつあるが、「成果と課題」の未記入がある。
- (3) 計画回数は上回ることができた。しかし、各学部・学年間の系統性という面で考えれば、連携不足と捉えることもできるだろう。
- (4) アルバイト、運転免許証の取り扱いについて検討した。
- (5) 今年度も関係機関やジョブサポートティーチャーと綿密に連携し、また、合同就職面接会で企業に受け入れの依頼をするなどの取組で体験先を確保した。しかし生徒の希望職種や通勤可能範囲が合致せず、体験を辞退した事業所があった。

#### 【今後の改善方策】

- (1) 主に高等部において、校内授業研の反省の時間が不十分である。授業参加者を中心に反省会を行うようにする。
- (2) 学年会等で授業反省の時間を確保するようにする。
- (3) 平成23年度食に関する指導の全体計画、及び食に関する年間指導計画に従い、各学部・学年間で系統性を持った指導を行うようにしていく。
- (4) 生徒指導規定を作成する。
- (5) 生徒の希望職種や通勤範囲内や通勤に替わる手段を視野に入れた就業体験先の開拓や企業の連合体との連携を深めていく。小中学校に対して、就業体験・職場実習や自立に向けて必要となる力についての情報を発信していく。

### 2 相談や支援の態勢を整え、地域のセンター的機能を充実させる。

|                              |        |                    |        |     |   |           |       |
|------------------------------|--------|--------------------|--------|-----|---|-----------|-------|
| (1) 教育相談や特別支援教育に関する情報の充実を図る。 | 教育相談回数 | 年 64 回<br>(年 50 回) | 年 55 回 | 179 | A | 目標を達成できた。 | 地域支援部 |
|------------------------------|--------|--------------------|--------|-----|---|-----------|-------|

|                                |              |                          |              |       |   |           |  |
|--------------------------------|--------------|--------------------------|--------------|-------|---|-----------|--|
| (2)小中高等学校を始めとする関係諸機関との連携を強化する。 | 小中高等学校への支援回数 | 年 98 件<br>(年間<br>60 件以上) | 年間 65<br>件以上 | 1 4 4 | A | 目標を達成できた。 |  |
|--------------------------------|--------------|--------------------------|--------------|-------|---|-----------|--|

【評価結果の分析】

学校評価アンケートの記述から、学校訪問相談、実態把握の実施などにより、地域の学校との連携が深まり、本校のセンター的機能についての理解が定着しつつあると考えられる。また、支援センターだよりなどについては、校内研修資料としての活用や学校訪問相談の補完を期待する記述があることから、地域での活用が図られており、よりニーズに応じた内容の充実が期待されていると考える。

備北地域の特別支援教育の中核的役割を期待する趣旨の記述があることから、地域と共同で充実を図る特別支援教育の取組が必要と考えられる。

【今後の改善方策】

学校訪問体制を確立する。そのために、センター的機能の取組についての情報発信及び関係教育委員会及び関係校長会等の連携の充実を図る必要がある。

地域の学校の相談実態から、本校でのアセスメント機能の充実を図る必要がある。

高等学校への支援の充実を図る必要がある。

地域で共同して特別支援教育を推進するネットワークづくりのため、関係教育委員会や校長会等との理解協力を得ながら、公開研修会等の共同実践の充実を図る必要がある。

3 信頼される学校を目指し、組織マネジメントを確立する。

|  |                            |       |           |                               |   |   |       |
|--|----------------------------|-------|-----------|-------------------------------|---|---|-------|
| (1)ホームページを始めとして、学校情報の発信を定期的に行う。              | 発信回数                       | 月 3 回 | 月 3 回     | 平均で<br>月 3 回<br>以上            | A | 目標を達成できた。                                       | 教育企画部 |
| (2)保護者及び通学区域内小中学校へのアンケートを実施し、学校に対するニーズを把握する。 | アンケート回収率                   | 93.3% | 60%<br>以上 | 保護者<br>88.9%<br>小中学校<br>85.7% | B | アンケートの質問項目について検討が必要である。                         | 総務部   |
| (3)災害等に対する避難の検討整備を図る。(安全)                    | 年間6回以上の訓練を行う。              | 6回    | 6回        | 7回                            | A | 訓練等は計画的に実施できた。                                  | 保健部   |
| (4)学校環境整備を進め、安心して学べる学校をつくる。                  | 毎月1回の安全点検により、修理必要箇所を改善を図る。 | 85.5% | 87.5%     | 95.0%                         | A | 危険箇所の早期発見に努めるとともに、特に危険と思われる箇所については概ね迅速に改修等を行った。 | 事務部   |

【評価結果の分析】

(1) HPの管理は基本的に教育企画で行うが、更新は起案者が行うようにしたため更新しやすくなった。

(2) 保護者アンケートは昨年度より回収率は落ちたが、改善につながる結果が得られ、教職員間での議論が深まっている。小中学校長対象のアンケートは初めての試みであったが、目標値を上回り回収することができた。

(3) 災害・事故等に関する訓練・講習会は年間8回計画し、内1回が実施を検討していた。結果として、7回実施でき、目標回数は十分に上回ることができた。

(4) 安全点検によって明らかになった施設設備の破損などについて、危険度又は緊急度の高低に応じて適宜必要な修繕等を行った。また、毎月の安全点検を全職員で分担して行うことにより、安全意識の高揚にも繋がった。

【今後の改善方策】

(1) HPのリニューアルをすすめ、新しい情報を探しやすくする。

(2) 小中学校長対象アンケートは、質問項目を再考のうえ次年度も実施し、ニーズの把握に努め、具体的改善につなげる。

(3) 災害・事故等はいつ起こるかわからないという考えを持ち、条件の整った日に計画するのではなく、困難が予想される日でも積極的に計画・実施をする。

(4) 引き続き毎月の安全点検を実施し、危険箇所の早期発見早期解消を図り、児童生徒の安全確保に努める。また一方で、経年による施設設備の老朽化が進んでおり、それらの計画的な改修を図る必要がある。

## 平成22年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

|    |     |     |          |      |       |       |     |
|----|-----|-----|----------|------|-------|-------|-----|
| 校番 | 113 | 学校名 | 庄原特別支援学校 | 校長氏名 | 刺田 信行 | 全・定・通 | 本・分 |
|----|-----|-----|----------|------|-------|-------|-----|

## 1 評価結果の分析

## (1) 成果

ア 特別支援教育に関する専門性を確立し、授業の改善・充実により児童生徒の生きる力を育む。

(ア) 計画通りに実施することが出来た。

(イ) 単元計画・指導略案の作成や授業の振り返りが定着しつつある。

(ウ) 計画回数は上回ることができた各学部・学年間の系統性という面で考えれば、連携不足と捉えることもできるだろう。

(エ) アルバイト、運転免許証の取り扱いについて検討した。

(オ) 今年度も関係機関やジョブサポートティーチャーと綿密に連携し、また、合同就職面接会で企業に受け入れの依頼をするなどの取組で体験先を確保した。生徒の希望職種や通勤可能範囲が合致せず、体験を辞退した事業所があった。

イ 相談や支援の態勢を整え、地域のセンター的機能を充実させる。

学校評価アンケートの記述から、学校訪問相談、実態把握の実施などにより、地域の学校との連携が深まり、本校のセンター的機能についての理解が定着しつつあると考えられる。

ウ 信頼される学校を目指し、組織マネジメントを確立する。

(ア) HPの管理は基本的に教育企画で行うが、更新は起案者が行うようにしたため更新しやすくなった。

(イ) 保護者アンケートは昨年度より回収率は落ちたが、改善につながる結果が得られ、教職員間での議論が深まっている。小中学校長対象のアンケートは初めての試みであったが、目標値を上回り回収することができた。

(ウ) 災害・事故等に関する訓練・講習会は年間8回計画し、内1回が実施を検討していた。結果として、7回実施でき、目標回数は十分に上回ることができた。

(エ) 安全点検によって明らかになった施設設備の破損などについて、危険度又は緊急度の高低に応じて適宜必要な修繕等を行った。また、毎月の安全点検を全職員で分担して行うことにより、安全意識の高揚にも繋がった。

## (2) 課題

ア 特別支援教育に関する専門性を確立し、授業の改善・充実により児童生徒の生きる力を育む。

(ア) 単元計画・指導略案の作成や授業の振り返りが定着しつつあるが、「成果と課題」の未記入がある。

(イ) 各学部・学年間の系統性という面で考えれば、連携不足と捉えることもできる。

(ウ) 生徒の希望職種や通勤可能範囲が合致せず、体験を辞退した事業所があった。

イ 相談や支援の態勢を整え、地域のセンター的機能を充実させる。

支援センターだよりなどについては、校内研修資料としての活用や学校訪問相談の補完を期待する記述があることから、地域での活用が図られており、よりニーズに応じた内容の充実が期待されていると考える。備北地域の特別支援教育の中核的役割を期待する趣旨の記述があることから、地域と共同で充実を図る特別支援教育の取組が必要と考えられる。

ウ 信頼される学校を目指し、組織マネジメントを確立する。

## 2 今後の改善方策

ア 特別支援教育に関する専門性を確立し、授業の改善・充実により児童生徒の生きる力を育む。

(ア) 主に高等部において、校内授業研の反省の時間が不十分である。授業参加者を中心に反省会を行うようにする。

(イ) 学年会等で授業反省の時間を確保するようにする。

(ウ) 平成23年度食に関する指導の全体計画、及び食に関する年間指導計画に従い、各学部・学年間で系統性を持った指導を行うようにしていく。

(エ) 来年度当初に生徒指導規定を作成する。

(オ) 生徒の希望職種や通勤範囲内や通勤に替わる手段を視野に入れた就業体験先の開拓や企業の連合体との連携を深めていく。小中学校に対して、就業体験・職場実習や自立に向けて必要となる力についての情報を発信していく。

イ 相談や支援の態勢を整え、地域のセンター的機能を充実させる。

学校訪問体制を確立する。そのために、センター的機能の取組についての情報発信及び関係教育委員会及び関係校長会等の連携の充実を図る。

地域の学校の相談実態から、本校でのアセスメント機能の充実を図る。

高等学校への支援の充実を図る。

地域で共同して特別支援教育を推進するネットワークづくりのため、関係教育委員会や校長会等との理解協力を得ながら、公開研修会等の共同実践の充実を図る。

ウ 信頼される学校を目指し、組織マネジメントを確立する。

(ア) HPのリニューアルをすすめ、新しい情報を探しやすくする。

(イ) 小中学校長対象アンケートは、質問項目を再考のうえ次年度も実施し、ニーズの把握に努め、具体的改善につなげる。

(ウ) 災害・事故等はいつ起こるかかわからないという考えを持ち、条件の整った日に計画するのではなく、困難が予想される日でも積極的に計画・実施をする。

(エ) 引き続き毎月の安全点検を実施し、危険箇所の早期発見早期解消を図り、児童生徒の安全確保に努める。また一方で、経年による施設設備の老朽化が進んでおり、それらの計画的な改修を図る必要がある。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

(1) 特別支援教育に関する専門性を確立し、授業の改善・充実により児童生徒の生きる力を育む。

ア 責任者を明確にし、具体的なスケジュールと改善策をたてるために、児童生徒の変容をもとにした評価基準を立てる。

イ 来年度に向けて、成果指標や評価基準を明確にし、教職員の授業改善の意識を高め、授業評価を行う。

(2) 相談や支援の態勢を整え、地域のセンター的機能を充実させる。

ア 学校の情報を学校便り(仮称)や地域支援便りを定期的に発行し、学校の情報及びセンター情報を周知した上でアンケートを実施する。

イ 学校へ出かけ支援を行うだけでなく、地域の学校間での協働研究をととして有機的に支援の幅を広げる活動を行う。

(3) 信頼される学校を目指し、組織マネジメントを確立する。

目標設定、目標達成において、保護者、関係者に公表し意見を集約するなどの方策をとる。

平成22年度学校関係者評価シート(年度末評価)

平成 23 年 2 月 21 日

|    |     |     |          |      |       |       |    |
|----|-----|-----|----------|------|-------|-------|----|
| 校番 | 113 | 学校名 | 庄原特別支援学校 | 校長氏名 | 刺田 信行 | 全・定・通 | 本校 |
|----|-----|-----|----------|------|-------|-------|----|

| 評価項目               | 評価 | 理 由・意 見  |
|--------------------|----|--|
| 目標, 指標, 計画等の設定の適切さ | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設定の仕方については, 適切である</li> <li>・ 中間表かと同様に, 昨年度の評価 A の項目が設定してあるのは, いかがなものか。</li> <li>・ 児童生徒の実態にどのように対応しているのか見えてこない。</li> </ul>   |
| 目標の達成状況の評価の適切さ     | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子ども一人ひとりの育ちの評価について, 細かな分析を今後は行っていく必要がある。</li> <li>・ 時期的な内容もあるが, 昨年度の評価 A の項目について, 来年度不必要ではないか。</li> </ul>   |
| 目標達成に向けた取組みの適切さ    | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育相談のありかたについて, 合理的かつ効果的に行っていくためには, 具体的に何をすべきかについて検討する必要がある。</li> <li>・ 計画的に, いつ, 誰がを明確にして取り組む必要がある。分掌だけではなく, 分掌の誰がを明確にする。</li> </ul>  |
| 評価結果の分析の適切さ        | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個に対応した分析をしていくことが必要である。学校全体の取組みは評価できるが, 一人一人の子どもに即したほうが(困難であるか)今後どうしても必要になる。。</li> <li>・ 学校がどのように代ったのか, 児童生徒の成長や教職員の専門性の向上などが読み取れない。</li> <li>・ 情報発信がまだ少ないと感じる。廊下に他校の情報が置かれているが, 読まれた形跡があまりない。積極的に利用できる方法を考える必要がある。</li> <li>・ 進路指導, 生徒指導の具体的な取組みが見えてこない。来年度は, 生徒指導規定(方針)を明確に打ち出す必要がある。</li> </ul> |
| 今後の改善方策の適切さ        | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもへの教育的効果の評価をいかに行っていかかが課題。</li> <li>・ 一人ひとりの子どもの実態に合わせた支援をいかに行っていかかが大きな課題になる。</li> </ul>   |
| 総合評価               | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標の立て方, 取組み方は評価できますが, 子ども一人ひとりにどれが反映しているか, 評価のあり方を検討していただきたい。</li> <li>・ 本校独自の特性を生かした支援のあり方についても今後検討することが必要になる。</li> </ul>  |